

## 2024 年度公開講座 「核時代における非戦」

### 第 2 回 「核時代を考える：映画『オッペンハイマー』で描かれたこと、描かれなかったこと」

2024 年 11 月 8 日（金）10：00～12：00

日本パグウォッシュ会議、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会および PRIME（明治学院大学国際平和研究所）の三者は、2018 年以來、市民に開かれたシンポジウムを共催してきました。包括的テーマは、当初の「核の脅威削減に向けて」から「パグウォッシュ会議と『非戦』の思想」、そして現在の「核時代における非戦」に変わりましたが、貫くものは、人類共滅を防ぐための、核廃絶と戦争放棄という、ラッセル＝アインシュタイン宣言に示された理念です。ウクライナやガザでの戦闘が収まらぬなか、核大国による国際法無視の武力行使という、私たちの理念に真っ向から挑戦するような現実が、目の前で展開しています。またイスラエルのガザへの爆撃による死者が 4 万人を超えるという状況になっています。終末時計が、核時代が始まって以来、もっとも真夜中に近づいているのです。奈落の淵から引き返すため、私たちは、科学的知見に基づいて、新たな展望を社会に提供することをめざします。市民と科学者、宗教者が理性的に対話する場をひろげて、核兵器廃絶と非戦の道を歩む思想と運動を、一層豊かなものにしていきたいと願っています。

#### 第 2 回講座の趣旨

映画『オッペンハイマー』（クリストファー・ノーラン監督、2023 年）の観客動員数は 100 万人を超えています。同映画は原爆実験について世界中の人々が考える「効果」があったといえます。しかしながら、映画ではオッペンハイマーは広島・長崎の惨状は見えない設定になっており、原爆、そして水爆によるフォールアウトも描かれていません。もう一人の主人公ともいえるストローズ米原子力委員会委員長もオッペンハイマーを追及・追放した人物として描かれる一方で、水爆実験の責任者として被災者を軽視した人物としては描かれていません。核時代を考えるにあたって、同映画の影響力を考えると、多層的に検証する必要があるのではないのでしょうか。今回の講座では、核時代を表象する作品を制作しているアーティストの蔦谷楽さん、原作者の一人マーティン・シャーウィン博士への取材経験のある中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター長の金崎由美さん、そしてパグウォッシュ会議評議員でもある長崎大学教授の鈴木達治郎さんに映画『オッペンハイマー』について議論していただきます。

#### プログラム（敬称略）

司会：高橋博子（奈良大学教授・日本パグウォッシュ会議運営委員・PRIME 研究員）

10：00 開会

共催者代表挨拶 中村憲一郎（WCRP 日本委員会 STOP！核依存タスクフォース 責任者）

共催者代表挨拶 稲垣知宏（日本パグウォッシュ会議代表、広島大学教授）

10：15 シンポジウム 核時代を考える：映画『オッペンハイマー』で描かれたこと、描かれなかったこと

パネリスト： 蔦谷楽（アーティスト）

金崎由美（中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター長）

鈴木達治郎（長崎大学教授・パグウォッシュ会議評議員）

11：15 質疑応答

11：55 共催者代表挨拶 戸谷 浩 明治学院大学国際平和研究所（PRIME）所長

12：00 閉会

## プロフィール（敬称略）

### <パネリスト>

#### 蔦谷 楽（つたや・がく）アーティスト

ニューヨーク州クイーンズ市在住。東京造形大学美術学部を1998年に卒業後、北九州現代美術センター（CCA）にリサーチフェローとして2年間滞在。2018年にニューヨーク州立大学 SUNY パーチェス・カレッジで美術修士号を取得後アメリカを中心に活動を続け、いまに至る。近年の個展には、Ulterior Gallery（ニューヨーク、2023年、2020年、2017年）、原爆の図丸木美術館（2022年）、Hawai'i Triennial 2022（ハワイ州ホノルル：2022年）などがある。

#### 金崎 由美（かなざき ゆみ）中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター長

北海道生まれ。北海道大法学部卒。1995年中国新聞社入社。岩国総局、東京支社、報道部、論説委員室などを経て2020年から現職。連載「グレーゾーン 低線量被曝の影響」で2017年科学ジャーナリスト 大賞共同受賞。2020年新聞協会賞受賞「ヒロシマの空白 被爆75年」取材班代表。著書にサーロー節子自伝「光に向かって這っていけ 核なき世界を追い求めて」（本人との共著、岩波書店）

#### 鈴木 達治郎（すずき・たつじろう）長崎大学教授・パグウォッシュ会議評議員

1975年東京大学工学部原子力工学科卒。78年マサチューセッツ工科大学プログラム修士修了。工学博士（東京大学）。専門は原子力政策、核軍縮・不拡散政策、科学技術と社会論。2010年1月より2014年3月まで内閣府原子力委員会委員長代理を務めた。2014年より長崎大学核兵器廃絶研究センター教授。2015年よりセンター長。核兵器と戦争の根絶を目指す科学者集団パグウォッシュ会議評議員として活動を続けている。

### <司会進行>

#### 高橋 博子（たかはし ひろこ）：奈良大学文学部史学科教授

日本学術会議連携会員、日本パグウォッシュ会議運営委員、明治学院大学国際研究所研究員。同志社大学大学院修了。博士（文化史学）主な著書：『新訂増補版 封印されたヒロシマ・ナガサキ』（凱風社、2012年、単著）、『核の戦後史』（創元社、2016年、共著）、『歴史はなぜ必要なのか』（岩波書店、2022年、共著）他。

### <共催者代表挨拶>

中村 憲一郎（なかむら・けんいちろう）WCRP 日本委員会理事、ストップ！核依存タスクフォース責任者  
中央大学法学部法律学科卒業。立正佼成会青年本部、財務部、渉外部等のスタッフを経て、1992年より秘書室広報課長、大和教会長、京都教会長を歴任。2011年には本部（東京）に異動し、総務局時務部長、総務局長、常務理事を経て、2019年から参務・京都教会長を務めた。WCRP 日本委員会では、2012年に理事および核兵器廃絶タスクフォース責任者に就任。2017年から現在まで、タスクフォース責任者を担う。

#### 稲垣 知宏（いながき・ともひろ）日本パグウォッシュ会議代表

広島大学情報メディア教育研究センター教授。専門は、数物系科学、物理学、素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理。博士（理学）（広島大学）。

#### 戸谷 浩（とや・ひろし）明治学院大学国際平和研究所(PRIME)所長

明治学院大学国際学部教授。専攻はハンガリー近世史。主な著書・訳書に、『農の世界史』（ミネルヴァ書房、2023年）『ブダペシュトを引き裂がす 深層のハンガリー史へ』（彩流社、2017年）等。